

きょう ねんかんだいさんしゅじつ かみ しゅじつ ぜんせかい しんこう ひと
今日は年間第三主日で、「神のみことばの主日」にあたります。それは全世界の信仰のある人たちが、
 かみさま みことば ちゅうじつ きょうこう せいいてい しゅじつ
 神様の御言葉にもっと忠実になるようにと、教皇フランシスコによって制定された主日です。
 にほんきょうかい ばあい わ かんこく ばあい きょうかい しんじや
 日本教会のケースはどうか分かりませんが、韓国の場合、「カトリック教会の信者さんたちは、
 せいしよ よ ふうひょう う ほんとう ざんねん い え
 聖書をあまり読まない。」という風評を受けています。本当に残念なことだと言わざるを得ません。
 じつ じしん いま そうせいき もくしりく すべ せいしよ よ いちど
 実に、わたし自身も今まで、創世記からヨハネの黙示録までの全ての聖書を読んだのはただ一度だ
 けですので、弁明の余地は全くないと、今日の御言葉を読みながら改めて反省しました。信仰の
 ひと かみさま みことば か せいしよ い いのち いずみ
 ある人たちにとって神様の御言葉とそれが書いてある聖書は、言うまでもなく「命の泉」です。
 せいしよ せいしよ とお あた かみさま みことば よ
 つまり、わたしたちは聖書から、また、その聖書を通して与えられる神様の御言葉から、この世の
 なか ゆ い ため ちから じじつ かみさま じぶん みことば おひと
 中で揺らがずに生きていく為の力をいただくのです。事実、神様はご自分の御言葉であり御独り
 こ さま つか さま とお じんせい しん みち しめ みち えいえん
 子であるイエス様を遣わされ、そのイエス様を通して人生の真の道を示されました。その道は永遠
 の命に至る道で、イエス様はその道を様々な教えとするしを通してはっきりと見せて下さいまし
 た。それは勿論、愛の道で、イエス様は神様がその愛によって人間を救おうとされるのを知ってお
 られたわけです。そこで、今日の福音でイエス様はご自分の公生活を始めるにあたって、イザヤ
 の預言を選ばれ、それをご自分の人生のキャッチフレーズとされたのです。
 きょう ふくいん れい ちから み もど さま ひょうばん まわ ちほういつたい ひろ
今日の福音で、霊の力に満ちてガリラヤに戻られたイエス様の評判は、周りの地方一帯に広ま
 り、諸会堂でイエス様の教えを耳にした人々は皆、イエス様を尊敬していました。その時、きっと
 さま りっぱ せっきょういえ ひょうか さま はなし き ひと
 イエス様は「とても立派な説教家」として評価され、イエス様の話を聞こうとする人たちもま
 ます増えていたはずです。そんな中、イエス様はご自分の故郷のナザレに来られ、いつものとおり
 あんそくび かいどう はい せいしよ ろうどく た さま わた せいしよ
 安息日に会堂に入られ、聖書を朗読しようとお立ちになりました。そのイエス様に渡された聖書は
 まきもの さま なか かしよ め と かしよ
 イザヤの巻物でしたが、イエス様はその中のある箇所を目を留められたのです。その箇所とは、
 しゅ れい うえ まず ひと ふくいん つ し しゅ あぶら そそ
 「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注

がれたからである。主^{しゅ}がわたしを遣^{つか}わされたのは、捕^とらわれている人に解放^{かいほう}を、目^めの見えない人^{ひと}に視力^{しりよく}の回復^{かいふく}を告^つげ、圧迫^{あっぱく}されている人^{ひと}を自由^{じゆう}にし、主^{しゅ}の恵^{めぐ}みの年^{とし}を告^つげるためである。」という箇所^{かしょ}でした。まさに、その箇所^{かしょ}はイザヤの預言者^{よげんしゃ}としての召命^{しょうめい}に関するもので、イエス様^{さま}はその召命^{しょうめい}をご自分^{じぶん}のものとして受け止められたのです。そのイエス様^{さま}に全ての人の目^めが注^{そそ}がれていましたが、それは、その箇所^{かしょ}について「立派^{りっぱ}な説教家^{せつきょうか}である」イエス様^{さま}がどう教^{おし}えるかを聞^きくためでしょう。そこで、イエス様^{さま}はその箇所^{かしょ}についてとても簡単^{かんたん}で短^{みじか}いコメントから話^{はな}し始め^{はじ}られました。それは、「この聖書^{せいしょ}の言葉^{ことば}は、今日^{きょう}、あなたがたが耳^{みみ}にしたとき、実現^{じつげん}した。」という言葉^{ことば}でした。それはご自分^{じぶん}の使命^{しめい}についての、なんと荘厳^{そうごん}な宣言^{せんげん}でしょう。

事実^{じじつ}、イザヤは苦^{くる}しみを受^うける主^{しゅ}の僕^{しもべ}として、いつか必^{かなら}ず来^こられるメシア^{しめい}の使命^{よげん}について預言^{よげん}しました。それが今日^{きょう}の福音^{ふくいん}でイエス様^{さま}が選^{えら}んだ御言葉^{みことば}で、イエス様^{さま}はただ「立派^{りっぱ}な説教家^{せつきょうか}」ではなく十字架^{じゅうじか}の苦^{くる}しみを受^うけ止め、神様^{かみさま}が望^{のぞ}んでおられる真^{しん}の救^{すく}いを成^なし遂^とげようとされたのです。言^いい換^かえればイエス様^{さま}は口^{くち}だけの教^{おし}えだけでなく、実^{じっさい}際の行^{こうどう}動^{どう}を通^{とお}して神様^{かみさま}の慈^{いつく}しみと愛^{あい}による救^{すく}いを完成^{かんせい}されました。イエス様^{さま}は貧^{まず}しい人^{ひと}たちに神様^{かみさま}の国^{くに}の福音^{ふくいん}を告^つげ、彼^{かれ}らがその国^{くに}の民^{たみ}となることを教^{おし}えられました。また、悪^{あく}霊^{りょう}にとりつかれていた人^{ひと}たちや自分^{じぶん}の罪^{つみ}に捕^{つか}まっていた人^{ひと}たちを解放^{かいほう}してくださいました。目^めの見えない人^{ひと}は勿^{もちろん}論^{いろ}、色^{いろいろな}々な病^{びょうき}気で苦^{くる}しんでいた人^{ひと}たちを癒^{いや}してください、世^よの中^{なか}の様^{さまざま}々な力^{ちから}に疲^{つか}れ果^はてていた人^{ひと}たちには、自由^{じゆう}と安^{やす}らぎを与^{あた}えてくださったのです。その全^{すべ}ての教^{おし}えやしるしは、神様^{かみさま}の国^{くに}がイエス様^{さま}ご自身^{じしん}によってすでに来^きているのを証^{あか}しするものなのです。そこでイエス様^{さま}は「この聖書^{せいしょ}の言葉^{ことば}は、今日^{きょう}、あなたがたが耳^{みみ}にしたとき、実現^{じつげん}した。」とおっしゃったわけです。イエス様^{さま}の言^いわれた「今日^{きょう}」とは「まさ^{いま}に今^{いま}」という意味^{いみ}で、「あなたがたが耳^{みみ}にしたとき」、つまり、わたしたちが御言葉^{みことば}に耳^{みみ}を傾^{かたむ}けるときイエス様^{さま}はそこにおられ、その言葉^{ことば}どおりになさるという意味^{いみ}です。言^いい換^かえればわたしたちが真^{まごころ}心^{みことば}で御言葉^きを聞

き、それに素直に従うとき、イエス様はすぐそばにおられ、愛と慈しみの道、救いと回復の道、自由と平和の道に導いてくださるということです。逆に言うと、そのような道に導かれない人は、御言葉を聞いても相変わらず自分なりの道、すなわち、傲慢と独善の道を歩むはずで、その道は不満と恨み、不和と分裂への道に違いありません。

今日の第一朗読で、バビロンから解放されたイスラエルの民は、エズラやレビ人たちに励まされました。彼らは自分たちと先祖たちの神様への不従順に対して涙しながら、神様のみ言葉に耳を傾けていました。その束縛の年月があまりにも長かったので、彼らはもう先祖たちの言葉を忘れてしまい、翻訳や通訳がなければ、神様の御言葉を聞くことも、理解することもできなくなったわけです。ここに「神様への不従順」という罪の恐ろしさがあるのです。その不従順の心は神様への謙遜の心を崩し、また、隣人への愛と尊重する心をも失わせます。そうすると、残るのはそれぞれの人間的な思いやり方、力比べだけで、わたしたちはそれを警戒しなければなりません。そうしないと、教会はもはや命の泉であるキリストのものではなく、一部の力強い人たちの集団、声高な人たちの専有物となってしまわずです。

そこで、今日の第二朗読で使徒パウロはコリントの教会に向かって、「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。」と言いました。パウロはコリント教会がそれぞれの異なる意見や人間的な知識、世の中のやり方に揺らぐことを戒めたのです。キリストの体の一部分となっている人たちの間には、一つの愛の霊による絆だけがあり、その絆によって、わたしたちはキリストの体を共に支えることができ、この世の中で神様の慈しみと愛による救いを証しすることができます。その絆を保つために必要なことは、まず、神様のみ言葉とイエス様の福音に忠実となることです。そして、この愛の晩餐であるミサを大事にすることです。この二つの柱がなければ、私たちが信仰のある人たちの命は、もうその泉を失ったと言っても過言では

ありません。これから、^{しんじゃ}信者の^{みな}皆さんが、^{かみさま}神様の^{みことば}御言葉に^{すなお}素直に^{したが}従われたイエス^{さま}様のようになり、
この^{しんこう}信仰の^{みち}道を^{ちゅうじつ}忠実に^{あゆ}歩むことができるよう、^{いの}お祈り^{いた}致します。